

アソカ講話041

テーマ「悲しみの意味」

小さな人生論第2巻1章に「人生のテーマ」として脳性小児まひで15歳の命を生き抜いた少年の母に宛てた詩が紹介されている。読書会参加者の井下さんから教えられた詩であるが、実は少年のお母さんの詩があると言う。その詩の始まりは少年に向けて「許してね・・・」で始まり、そしてその締めくくりは少年の存在に「ありがとう・・・」で終わる。ここに悲しみを生き抜いて「ありがとう」の境地に達した人の深い悲しみと優しさがあり、その詩を聴くと、涙と共に心が洗い流され、そしていつもより優しくなっている自分に気づく。

お釈迦様は、人間として一番大切な愛や思いやりを「慈悲」という言葉で表現している。悲しむという言葉が、なぜ使われているかそれは、人は悲しみを通してしか、他者の悲しみを理解できない、他者への思いやりが育まれないからだろう。悲しみを知らない人は、他者の悲しみを癒すことなど永遠にできないのだ。

私達に時として与えられる、「人生の悲しみ」は、その悲しみを体験することで他者の悲しみを心の深い所で感じ取れる力を同時に与えてくれている。人生をより深く味わい、より豊かな心を養うために、いま、そこに、あなたの悲しみがあるのだ。